

様式第 2 号の 1－② 【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第 2 号の 1－①を用いること。

学校名	専門学校名 古屋ホスピタリティ・アカデミー
設置者名	学校法人 21 世紀アカデメイア

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数（改正前）

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のあ る教員等によ る授業科目の 単位数	省令で定める 基準単位数	配 置 困 難
商業実務 専門課程	旅行学科		96 単位	6 単位	
	ホテル学科		108 単位	6 単位	
	鉄道サービス学科		90 単位	6 単位	
	エアライン学科		120 単位	6 単位	
	ブライダル学科		120 単位	6 単位	
	グローバル語学 学科		118 単位	6 単位	
	観光ビジネス学科		86 単位	6 単位	
(備考)					

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数（改正後）

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
商業実務専門課程	旅行学科		93単位	7単位	
	ホテル学科		96単位	7単位	
	鉄道サービス学科		81単位	7単位	
	エアライン学科		114単位	7単位	
	ブライダル学科		81単位	7単位	
	グローバル語学学科		116単位	7単位	
	観光ビジネス学科		71単位	7単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

全学生へ配布の「学生便覧」「履修教科目案内」にて カリキュラム・シラバス・GPA 修了規定を説明 / 入学検討者・保護者等には（所定の資料請求手続き）にて配布
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第 2 号の 2－① 【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第 2 号の 2－②を用いること。

学校名	専門学校名 古屋ホスピタリティ・アカデミー
設置者名	学校法人 21 世紀アカデメイア

1. 理事（役員）名簿の公表方法

総合事務局にて（所定の請求手続き）で公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤 の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	大学教授（現職）	2025 年 5 月 30 日～ 2029 年定時評議員会 終結時	ガバナンスの強化
非常勤	大学客員教授（現職）	2025 年 5 月 30 日～ 2029 年定時評議員会 終結時	ガバナンスの強化
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校名古屋ホスピタリティ・アカデミー
設置者名	学校法人21世紀アカデメイア

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【シラバス作成過程】 ① 年2回 学校長と学科長・担任による「カリキュラム会議」を実施 ② 上記 カリキュラム案を「教育課程編成委員会」による評価(改善・修正) ③ 次年度 実施のカリキュラムを作成 ④ カリキュラム実施にあたり業界のエキスパートから講師を募集・人選 ⑤ 授業担当講師と学科長・担任による学科会議(授業方針・目標の確認) ⑥ 担当講師より授業計画(シラバス)の提出 ⑦ 学科長が総合的に教育効果を判断し(改善・修正のフィードバック) ⑧ 授業担当講師より校長へ提出 最終決済を受ける。 【シラバスの作成】 上記作成過程にそって該当年度の前年より作成に着手、年末までに担当授業講師よりシラバスを回収→次年度 入学準備で「履修科目案内」の印刷製本を完了 【シラバス公表】 ① 1年次：入学オリエンテーション 全学生へ配布説明 ② 2年次：進級オリエンテーション 全学生へ配布説明 ③ 保護者会にて配布説明	
授業計画書の公表方法	全学生へ配布の「学生便覧」「履修教科目案内」にてカリキュラム・シラバス・GPA・卒業規定について説明 入学検討者・保護者等(所定の資料請求手続き)にて配布
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業担当者間の評価差異がおこらぬよう明確な(評価基準)(評価方法)提示カリキュラム・シラバスにて全学生へ詳細解説、学科長・校長による担当者評価判定が厳格かつ適正に行われているかチェックした後、履修認定行っている。 【成績評価の基準】 (学期末試験 70/100) + (出席点 20/100) + (平常点 10/100) の合計を5段階評価(100～90 : S) (98～80 : A) (79～70 : B) (69～60 : C) を合格(59～0 : F) は不合格とし再試験を受ける事ができる。 【成績評価の方法】 あらかじめ授業計画(シラバス)で教育到達目標を明確に定め、成績評価の方法(テスト)(レポート)(実技)(企画書)の他に(テスト+レポート)(実技+レポート)等 学生の長所を複数の観点で評価さらに学科長・担任が授業・学習成果を確認する事で、偏りの無い成績評価を行なう。 また学校長は授業オブザーバーとして適宜 授業参観を行い学生の学修意欲を把握。客観的な視点で教育環境の維持・改善・教師の教育指導にあたる。	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 【G P A制度の概要】 成績は(100～90 : S) (98～80 : A) (79～70 : B) (69～60 : C) までを合格(59～0 : F) は不合格とする5段階評価である。 成績評価は【S=4.0】【A=3.0】【B=2.0】【C=1.0】【F=0.0】としG P に変換します。 在学中の全期間における学修成果を示す指標として「累積G P A」を当該学期における学修成果を示す指標として「学期G P A」を算出する。 本校のG P A制度は在校生のみならず学校関係者に広く公表する事で学生の自律的な学修の促進および学生に対する学修指導(学期G P Aによる学科別成績分布状況の把握)・就職指導(累積G P Aによるマッチング企業の選定)等 学生指導に活用する事を目的とする。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	全学生へ配布の「学生便覧」「履修教科目案内」にてカリキュラム・シラバス・GPA・卒業規定について説明 入学検討者・保護者等(所定の資料請求手続き)にて配布
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【 ディプロマ・ポリシー 】

観光業界・ブライダル業界に関する深い専門知識と技術、さらに一般教養やマナー、語学をはじめとする社会人基礎力を体得し、好きや憧れの世界で社会に貢献できる者に卒業認定資格ならびに専門士を授与する。

また技術革新が急速に進む現代社会の中で人としての価値や品格を大切に世界の人の幸せに貢献できる人材を育成する。

【 卒業の認定 】

卒業認定は本校の卒業生としてふさわしい人格・品位を重んずると伴に以下の条件を満たさなければならない。

- ① 卒業に必要な履修単位数 (1年生 学科別に定める単位
2年生 120単位以上)
- ② 出席日数 2年間を通じ各科目 (2/3以上)
- ③ 所定の学費を完納している事

【 卒業認定会議 】

- ④ 補講・再試験・特別授業 を経て卒業に必要な単位に満たない者は卒業認定会議にて審査(課外活動・社会貢献・学外表彰 等を考慮)を行い108単位以上をもって卒業とする場合がある。
- ⑤ 卒業に必要な履修単位を取得していても、犯罪・法的違反等卒業生にふさわしく無い行為が発覚した場合、卒業の前・後を問わず卒業認定を取り消す。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

全学生へ配布の「学生便覧」「履修教科目案内」にて
カリキュラム・シラバス・GPA・卒業規定について説明
入学検討者・保護者等(所定の資料請求手続き)にて配布

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	鉄道サービス学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	107	84	10	13	0	0
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		101 人	0 人	2 人	10 人	12 人	
(備考) (任意記載事項)							

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	エアライン学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼間	114	94	14	6	0	0	
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人		62 人	0 人	5 人	14 人	19 人		
(備考) (任意記載事項)								

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	観光ビジネス学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	101	70	12	19	0	0
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		43 人	42 人	1 人	11 人	12 人	
(備考) (任意記載事項)							

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	グローバル語学学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	118	80	36	2	0	0
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		70人	0人	2人	10人	12人	
(備考) (任意記載事項)							

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】を参照	
修了・進級の認定基準	
(概要) 第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】を参照	
学修支援等	
(概要) 学生が教育課程を効果的に遂行する為に、A 学科担任制による(履修アドバイス)(基礎学力個別補講)(メンター制グループ学習) B キャリアカウンセラーによる(就職支援) C 臨床心理士による(心の相談)(なんでも相談室)等の積極的学修支援を実施	

■ 旅行学科

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21 人 (100%)	0 人 (0%)	21 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 旅行業界、運輸業界 他			
(就職指導内容) キャリアアドバイザー＋担任による個別指導、業界と連携した就職イベントの実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 総合旅行業務取扱管理者 国内旅行業務取扱管理者 世界遺産検定 実用英語 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
43 人	2 人	4.7%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 心の相談室（メンタル・カウンセラーの常駐） 学科長＋担任＋保護者 三者連携による見守りサポート		

■ 鉄道サービス学科

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
64 人 (100%)	0 人 (0%)	63 人 (98.4%)	1 人 (0.1%)
(主な就職、業界等) 鉄道業界（JRグループ・大手私鉄・中小私鉄）、運輸業界 他			
(就職指導内容) キャリアアドバイザー＋担任による個別指導、業界と連携した就職イベントの実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 総合旅行業務取扱管理者 国内旅行業務取扱管理者 旅行地理検定 サービス介助士			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
126 人	5 人	4.0%
(中途退学の主な理由) 学業不振、就職決定のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 心の相談室（メンタル・カウンセラーの常駐） 学科長＋担任＋保護者 三者連携による見守りサポート		

■ エアライン学科

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (95.7%)	1 人 (0.04%)
(主な就職、業界等) 航空業界 他			
(就職指導内容) キャリアアドバイザー＋担任による個別指導、業界と連携した就職イベントの実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) TOEIC サービス接遇検定 マナープロトコール検定 サービス介助士 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59 人	1 人	1.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 心の相談室（メンタル・カウンセラーの常駐） 学科長＋担任＋保護者 三者連携による見守りサポート		

ホテル学科

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
63 人 (100%)	0 人 (0.0%)	63 人 (100%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等) ホテル業界 他			
(就職指導内容) キャリアアドバイザー＋担任による個別指導、業界と連携した就職イベントの実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) ホテルビジネス実務検定 レストランサービス技能検定 秘書技能検定 TOEIC 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116 人	3 人	2.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、精神的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 心の相談室（メンタル・カウンセラーの常駐） 学科長＋担任＋保護者 三者連携による見守りサポート		

ブライダル学科

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28 人 (100%)	0 人 (0%)	28 人 (100%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等) ブライダル業界 他			
(就職指導内容) キャリアアドバイザー＋担任による個別指導、業界と連携した就職イベントの実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) ウェディングプランナー資格 サービス接遇検定 マナープロトコール検定 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47 人	5 人	10.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、精神的理由、就職決定のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 心の相談室（メンタル・カウンセラーの常駐） 学科長＋担任＋保護者 三者連携による見守りサポート		

■ 観光ビジネス学科

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
29 人 (100%)	0 人 (0%)	29 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) ホテル業界 他			
(就職指導内容) キャリアアドバイザー＋担任による個別指導、業界と連携した就職イベントの実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語検定 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47 人	2 人	4.3%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 心の相談室（メンタル・カウンセラーの常駐） 学科長＋担任＋保護者 三者連携による見守りサポート		

■ グローバル語学学科

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	18 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） キャリアアドバイザー＋担任による個別指導、業界と連携した就職イベントの実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 韓国語検定、中国語検定、TOEIC 他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51 人	4 人	7.8%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 心の相談室（メンタル・カウンセラーの常駐） 学科長＋担任＋保護者 三者連携による見守りサポート		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
旅行学科	150,000 円	1 学年 800,000 円	1 学年 192,000 円	
鉄道サービス学科				
エアライン学科		2 学年 958,000 円	2 学年 182,000 円	
ホテル学科				
ブライダル学科				
グローバル語学学科				
観光ビジネス学科				
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
https://www.meican.net/school/nha/specialized.php#disclosure
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制)
「学校点検・自己評価」をもとに企業・業界、卒業生や地域住民を含めた「学校関係者評価」を実施しホームページ上で公開を行うとともに、その結果を踏まえた学校運営の改善に取組み本校学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう学校運営の改善と充実を目指す事を基本方針とする。 【主な評価項目】 (学校評価ガイドライン 11 項目) (1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動 (4) 学修成果 (5) 学生支援 (6) 教育環境 (7) 学生の受入れ募集 (8) 財務 (9) 法令等の遵守 (10) 社会貢献・地域貢献 (11) 国際交流 を具体的に教育課程、進路指導など (学校が設定する評価 62 項目) に別け評価する。 【評価委員の構成】 (定数 8 名) ・設置学科の関連業界から委員を選出 (5 学科＝業界人 5 名) ・卒業生 (名古屋ホスピタリティ・アカデミー 校友会 1 名) (税理士 1 名) (地域住民 1 名) ・その他 (卒業年度の保護者会にて学校関係者評価としてアンケートを集計し反映) 【評価結果の活用方法】 評価結果はホームページにて公表 あわせて (学校長・学務責任者・各学科長) により評価結果に対する改善項目の問題要因を検証 A (年度内改善点) B (次年度改善点) に別けて具体的 (改善施策・予算・期日・成果目標) を立案 実施後 (改善成果・今後の課題) を学校関係者評価委員会へフィードバックし評価を活用している。

第三者評価の委員		
所属	任期	種別
名古屋クレストンホテル 柴崎 徹	令和7年4月1日～令和11年3月31日（4年）	ホテル企業
ウエディングハウス マナリゾート 原 綾香	令和7年4月1日～令和11年3月31日（4年）	ブライダル企業
株式会社 JTB 蛭澤 俊典	令和7年4月1日～令和11年3月31日（4年）	旅行企業
スイスポーτζャパン株式会社 西村 弥生	令和7年4月1日～令和11年3月31日（4年）	航空企業
株式会社 中央日本ツアーズ 奥田 浩史	令和7年4月1日～令和11年3月31日（4年）	鉄道企業
税理士法人 横須賀・久保田 久保田 一成	令和7年4月1日～令和11年3月31日（4年）	税理士
名古屋ホスピタリティ・アカデミー 校友会 本庄 高博	令和7年4月1日～令和11年3月31日（4年）	卒業生
栄東町づくりの会 田島 治郎	令和7年4月1日～令和11年3月31日（4年）	地域住民
第三者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.meican.net/school/nha/specialized.php#disclosure		
（備考）		
第三者評価は未実施のため、上記の内容は学校関係者評価のものである。		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） http://www.meican.net
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H123310001285
学校名 (〇〇大学 等)	専門学校名 古屋ホスピタリティ・アカデミー
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 21世紀アカデメイア

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		101人（ 55）人	88人（ 50）人	102人（ 55）人
内 訳	第Ⅰ区分	32人	22人	
	(うち多子世帯)	(一人)	(一人)	
	第Ⅱ区分	15人	13人	
	(うち多子世帯)	(一人)	(一人)	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
	(うち多子世帯)	(一人)	(0人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	一人	一人	
	区分外（多子世帯）	40人	39人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0）人
合計（年間）				102人（ 55）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）、及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）、及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。